

ぶんかざいまるちなび

No.54

文化財 知 ナビ

このニュースレターは、「文化財に親しむ機会の提供に関する事業」の一つとして、身近な文化財情報をはじめ、文化財を活用した事業などの紹介を行っています。

ぜひ学校教育や生涯学習の場で広くご活用ください。

いせき せかいいさん
北海道の遺跡が世界遺産になりました！

2021年7月27日に開催された第44回ユネスコ世界遺産委員会において、北海道の縄文遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」を世界遺産に登録することが決定されました。

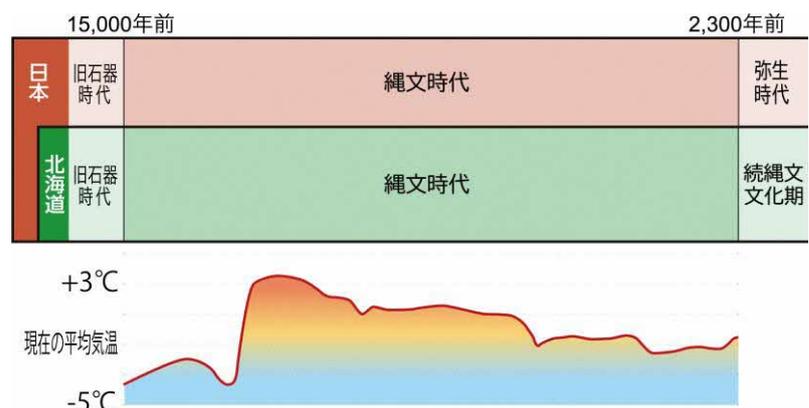
《世界遺産とは》

世界遺産とは、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」（世界遺産条約）にもとづき、締約国などが協力して保護する、「顕著な普遍的価値」をもつ建物や遺跡、自然のことです。「顕著な普遍的価値」とは、どの国や地域の人でも、いつの時代のどの世代の人でも同じように大事だと感じられる価値のことです。こうした価値を持つ世界遺産は、人類共通の「宝物」と言えます。

世界遺産には、文化遺産と自然遺産、その両方の価値がある複合遺産があります。文化遺産は建物や遺跡など人間が作り出したもの、自然遺産は美しい地形や絶滅の心配のある動物の生息地です。世界遺産は世界全体では文化遺産897件、自然遺産218件、複合遺産39件の計1,154件が登録されています。そのうち日本では文化遺産20件、自然遺産5件の計25件が登録されています（2021年7月現在）。北海道では、2005年に知床が自然遺産に登録されています。

《北海道・北東北の縄文遺跡群とは》

西アジアや中国の黄河流域など古代文明が発達した地域では、氷河期のおわり頃に、定住生活と農耕・牧畜をはじめます。しかし、縄文時代の人々は、ドングリなどの森林資源やサケ・マスなどの水産資源を活かし、狩猟・漁労・採集を基盤にした定住生活を1万年以上続けました。「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、



狩猟・採集=移動生活、農耕=定住生活という世界的な常識を覆し、1万年以上もの長期間にわたって農耕をせずに定住生活を維持、発展させていった文化があった証拠として世界的に評価されました。

《世界遺産になった遺跡》

北海道、北東北には2万カ所以上の縄文時代の遺跡が確認されており、北海道では約7,400カ所の遺跡があります。そのうち、縄文時代を通じて文化の共通性が高い津軽海峡周辺の地域を中心に、発掘調査で遺跡の価値が確認されており、市や町がきちんと保護をしている17の遺跡が構成資産として選ばれました。北海道では、千歳市キウス周堤墓群、伊達市北黄金貝塚、洞爺湖町入江貝塚・高砂貝塚、函館市大船遺跡・垣ノ島遺跡が構成資産に、森町鷺ノ木遺跡が関連資産になっています。

